



一般社団法人 耐震住宅100%実行委員会
〒100-0014 東京都千代田区永田町 2-13-5 赤坂エイトワンビル 7F

耐震のすすめ

真の耐震の普及啓発をめざして



 **GOOD DESIGN
AWARD 2023**

一般社団法人 耐震住宅100%実行委員会



真の耐震基準を広めるための仕組み、
TAISHIN100 Standards申請システムは
2023年 Good design 賞を受賞しました。

**私たちは、
優れた耐震住宅をつくとともに、
地震後も住み続けられる耐震化について
普及活動を推進するグループです。**

日本の家を100%耐震に――。

巨大地震がいつどこで起きてもおかしくない現代、

私たち一般社団法人耐震住宅100%実行委員会は、この理念をもとに考え、
行動に移し続けています。

これまでの会員の皆様が手がけられた一棟、一棟の確固たる耐震住宅は、
そうした活動の大きな証。

今、私たちはそれらをアーカイブし、世に問うことで、

耐震住宅の知識を広く普及させる「耐震のすすめ」をはじめます。



www.taishin100.or.jp



耐震住宅を「建てる」から、 ともに「広げる」へ

工務店や建設会社にとって、確かな技術と豊富な知識で耐震住宅を「建てる」ことは、何より重要な責務です。そうした住宅は、多くの人々の暮らしを支え、命を守る礎となっています。しかし、地震大国である日本において、耐震に対する意識や理解は、いまだ十分とは言えません。たとえ耐震基準が存在していても、それが現実に関わりうる一あるいは想定を超える一大地震に本当に耐えられるのか。その問いは、今あらためて立ち返るべきものです。

2025年4月、建築基準法が約20年ぶりに、木造住宅に関しては約40年ぶりに改正されました。私たちはこの改正をひとつの契機と捉え、独自に策定した「真の耐震基準＝TAISHIN100 Standards」を広く社会に問うべく、その実践の仕組みを築いていきます。

許容応力度計算+耐震等級3 というプライド



2016年熊本地震
Kumamotocity©2016

2016年の熊本地震では、新耐震基準に則った住宅でさえ倒壊するという事実が明らかになりました。これは、基準の改定そのものが進んでいても、社会全体や建設業界における「耐震」への意識がなお不十分であることを突きつけるものです。私たちは、熊本地震で被災した住宅を科学的に検証し、その結果に基づいて「TAISHIN100 Standards」を策定しました。

これは単なる目安ではなく、大地震から命を守るための「真の耐震基準」であり、私たちのプライドそのものです。もちろん、基準を提示するだけでは終わりません。その基準に基づいて建てられた一棟一棟をアーカイブし、社会に向けてその意義を見えるかたちで示していきます。耐震への意識を社会全体で共有するために。

地震や台風など自然災害が相次ぐ日本において、住宅の耐震化は不可欠です。しかし、新築住宅では耐震化が進む一方で、既存住宅の対策は依然として多くの課題を抱えています。費用負担の大きさ、工事期間中の生活への影響、耐震効果への信頼性、そして正確な情報の不足——こうした障壁が、耐震対策の一步を踏み出しにくくしているのが現状です。

そこで私たちは、「もっと身近に、もっと手軽に」耐震を届けるための仕組みとして、木質耐震シェルター 70K を開発・提供しています。これは住宅全体を改修するのではなく、寝室やリビングなど特定の空間を守ることに特化した装置です。短期間で設置できる一方で、高い耐震性能を実現。現実的かつ効果的な選択肢として、個人・企業・行政からの関心も年々高まっており、耐震の新たな選択肢として、その可能性を広げつつあります。



木質耐震シェルターが広げる 耐震の裾野



愛媛県伊方町 町役場



豊後高田：2023 年



横浜市 山木屋 2023 年 10 月



らくらくハウス：2021 年 12 月



建部大社社務所：2023 年

木質耐震シェルター 70K
これまで 100 ユニットを出荷し、大きな注目を集めています。
耐震化補助金の対象となりますので、お問い合わせください。



www.taishin100.or.jp

新築住宅と 既存中古住宅における 情報の蝶番



一般社団法人 耐震住宅 100% 実行委員会は、設立以来、全国の工務店や住宅関連企業と連携しながら、「地震で命を失わないための家やまちづくり」を目指して活動してきました。これまでは主に新築住宅を中心に取り組んできましたが、今、私たちは「安心 R 住宅制度」に注目しています。その理由は、中古住宅に関する正確な情報がこれまで十分に把握・共有されてこなかったからです。中古住宅の現状や課題を正しく知り、広く伝えることもまた、命を守るうえで欠かせないと考えています。私たちは今後、新築と既存住宅の間にある「情報の蝶番」として、家のライフサイクルを捉えた基盤をつくり、社会全体に耐震への意識を少しずつ広げていく活動を進めてまいります。



www.taishin100.or.jp

真の耐震基準の策定、
それに伴う仕組みや普及啓発活動



GOOD DESIGN AWARD 2023

私たち一般社団法人耐震住宅 100% 実行委員会は、2014 年の設立以来「地震で人が死なない家づくり」を活動指針とし、日本に安全・安心に住み続けられる家を、一棟でも多く増やしていくための社会活動に取り組んできました。

そして 2023 年、「真の耐震基準」の策定、それに伴う普及啓発活動が評価され、2023 年度グッドデザイン賞（主催：公益財団法人日本デザイン振興会）を受賞するに至りました。

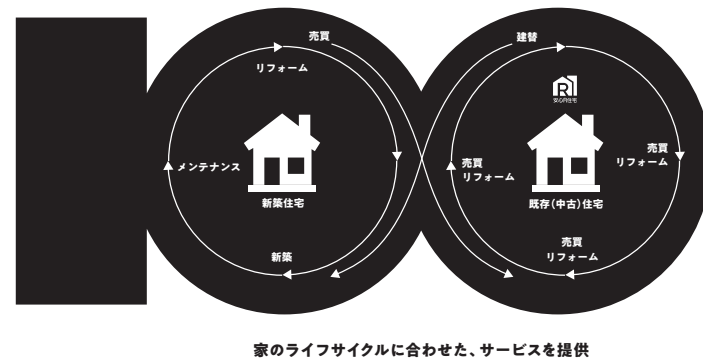
<グッドデザイン賞 審査委員の評価>一部抜粋

このプロジェクトは、専門家の拠り所となっている「耐震基準」への問いと 科学的根拠をベースとした実践である。近年、発災頻度の上昇と大規模化 とともに、2016 年の熊本地震のような前震と本震がともに震度 7 を記録 するといった、過去の経験値を超えた地震挙動も発生しており、常に最新の科学的データを重視し、木造住宅であっても、耐震基準を独自に見直し、それに基づいて構造計算を丁寧に進め、「自分の家にいることが一番安全で安心である」という日本社会をつくっていこうという取り組み姿勢 には、大いに共感できる。



会員の皆様へ

耐震 100% をさらに前進させるために、 家のライフサイクルを回す仕組み



一般社団法人耐震住宅100%実行委員会は、「真の耐震基準＝TAISHIN100 Standards」の運用をはじめ、木質耐震シェルター70Kの提供や、安心R住宅制度の普及など、幅広い耐震関連の取り組みを進めています。これらは新築住宅だけでなく、中古住宅（既存住宅）の市場にも目を向け、誰もが安心して暮らせる住環境を整えていくための、実践的な一歩です。こうした社会的な意義とあわせて、会員の皆様には、既存住宅のリフォームや耐震改修、さらには建て替えに至るまで、住宅のライフサイクル全体を見据えた新たなビジネスの可能性を提案。耐震をめぐる課題は、社会的責務であると同時に、持続可能な企業経営にもつながるテーマだと考えています。

社会的意義と経済的意義——この両輪を確かに回すこと。制度の枠を超え、より信頼性のある耐震基準を会員の皆様と共につくり上げ、真に安心できる住環境を広げていく。それこそが、私たち耐震住宅100%実行委員会の目指す姿です。

お問い合わせ

耐震について

- 一般の方への情報提供
 - 工務店・建設会社様への各種サービス提供
 - 地方自治体様へのイベントや補助金等の各種サポート
- 積極的に行っていますので、お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ [電話]

TEL: 03-6897-6789

[受付時間: 平日 10:00～17:00]

お問い合わせ [メール]

mail: info@taishin100.or.jp



お問い合わせ・資料請求 [フォーム]

<https://www.taishin100.or.jp/contact>



会員リスト

<https://www.taishin100.or.jp/member>



法人会員申込

<https://www.taishin100.or.jp/entry>



一般社団法人耐震住宅100%実行委員会

〒100-0014 東京都千代田区永田町 2-13-5 赤坂エイトワンビル 7F

本パンフレットの内容、テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。
Copyright © 2025 一般社団法人耐震住宅100%実行委員会 All Rights Reserved.